

# 22日 水曜

## エステル

9:1 第十二の月、すなわちアダルの月の十三日、この日に王の命令とその法令が実施された。この日に、ユダヤ人の敵がユダヤ人を征服しようと望んでいたのに、それが一変して、ユダヤ人が自分たちを憎む者たちを征服することとなった。

9:2 その日、ユダヤ人が自分たちに害を加えようとする者たちを殺そうと、アハシュエロス王のすべての州にある自分たちの町々で集まつたが、だれもユダヤ人に抵抗する者はいなかつた。民はみなユダヤ人を恐れていたからである。

9:3 諸州の首長、大守、総督、王の役人もみな、ユダヤ人を助けた。彼らはモルデカイを恐れたからである。

9:4 というのは、モルデカイは王宮で勢力があり、その名声はすべての州に広がつており、モルデカイはますます勢力を伸ばす人物だったからである。

9:5 ユダヤ人は彼らの敵をみな剣で打ち殺し、虐殺して滅ぼし、自分たちを憎む者を思いのままに処分した。

9:6 ユダヤ人はシュシャンの城でも五百人を殺して滅ぼし、

9:7 また、パルシャヌダタ、ダルフォン、アスパタ、

9:8 ポラタ、アダルヤ、アリダタ、

9:9 パルマシュタ、アリサイ、アリダイ、ワイザタ、

9:10 すなわち、ハメダタの子で、ユダヤ人を迫害する者ハマンの子十人を虐殺した。しかし、彼らは獲物には手をかけなかつた。

9:11 その日、シュシャンの城で殺された者の



Bible Reference  
聖書の記述

数が王に報告されると、

9:12 王は王妃エステルに尋ねた。「ユダヤ人はシュシャンの城で、五百人とハマンの子十人を殺して滅ぼした。王のほかの諸州では、彼らはどうしたであろう。あなたは何を願つているのか。それを授けてやろう。あなたはなおも何を望んでいるのか。それをかなえてやろう。」

9:13 エステルは答えた。「もしも王さま、よろしければ、あすも、シュシャンにいるユダヤ人に、きょうの法令どおりにすることを許してください。また、ハマンの十人の子を柱にかけてください。」

9:14 そこで王が、そのようにせよ、と命令したので、法令がシュシャンで布告され、ハマンの十人の子は柱にかけられた。

9:15 シュシャンにいるユダヤ人は、アダルの月の十四日にも集まって、シュシャンで三百人を殺したが、獲物には手をかけなかつた。

9:16 王の諸州にいるほかのユダヤ人も団結して、自分たちのいのちを守り、彼らの敵を除いて休みを得た。すなわち、自分たちを憎む者七万五千人を殺したが、獲物には手をかけなかつた。

ユダヤ人たちが殺したのは、彼らを殺そうとした者たちであつて、それは正当防衛でした。ユダヤ人はこの地では寄留者であり常に弱い立場でしたので、自分たちを守る必要があつたのです。しかしそれは法令の範囲内のことであつて、秩序のもとに行われました。すなわち彼らは「獲物には手をかけなかつた」のです。

エステルも王から願いを聞かれたときに、さらなる復讐は求めずに、すでに死んでいる敵を木にかけて、敵の復讐心をそぐという知恵によるもの

でした。

神を信じ従う者は、どんなに弱い立場に置かれようとも主は守ってくださいます。主を信じましょう。また自分に勝利が与えられたときも、思うままに振舞うのではなく、主のみこころを行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

